

ケーススタディ地区の取組概要

地区名 神石高原町

局署名 近中局／広島北部署・広島署

地域課題 小規模分散型の森林の集約団地化を通じた効率的な木材生産や森林整備、再造林の低コスト化、木材の安定的な供給

28年度実績

取組内容

- ・森林共同施業団地の設定により、民有林の集約化を促進（経営計画追加策定）
- ・介在地森林所有者との公益的機能維持増進協定を締結(H29.3)
- ・低密度植栽、一貫作業システム等の取組について森林組合等へ普及

現地検討会	2回（低密度植栽(国17名,民80名)、一貫作業システム(国25名,民64名))
勉強会	-
会議	6回
打合せ	11回

今後の予定

- ・設定した森林共同施業団地において、民有林の路網と効率的な接続となる路網配置、接続ポイントの作設
- ・一貫作業システム等の低コスト再造林技術の普及啓発



写真：低密度植栽育林体系導入の普及研修会(H28.8) 写真：低コスト再造林現地検討会(H28.11)

＜ケーススタディ地区の取組概要＞

小規模分散型の森林の集約団地化を通じた効率的な木材生産や 森林整備 ～再造林の低コスト化・木材の安定的な供給～

＜地区名＞

広島県 神石高原町地区

＜局・署名＞

近畿中国森林管理局・広島北部森林管理署、広島森林管理署

＜連携体制＞

ケーススタディ地区支援チーム

広島県、広島北部森林管理署、広島森林管理署、神石高原町、神石郡森林組合

＜取り組みの目的と背景＞

当地域の民有林の特徴として、人工林は所有形態が小規模零細であり、林業の採算性の悪化、過疎・高齢化の進行などによる森林所有者の林業経営意欲の低下から、手入れ不足の森林が増加しています。

そのため、小規模分散型の森林を集約化し、団地化して、路網整備と高性能林業機械を組み合わせた作業システムの導入等により、効率的な木材生産や森林整備を行う必要があります。

さらには、近年、皆伐後に植栽されない再造林放棄地が増加傾向で、再造林が進んでいない状況にあることなどから、持続可能な森林経営の実現を図るためにも、再造林の低コスト化に取り組む必要があります。



＜取り組みの概要＞

【低密度植栽育林技術体系の導入の普及研修会】

実施年月日：平成28年8月30日

場 所：新元重山国有林(福山市)・区民会館

参加者：県、森林組合等97名

【低コスト再造林現地検討会】

実施年月日：平成28年11月10日

場 所：通ヶ谷山国有林・公民館

参加者：県、森林組合等89名

【森林共同施業団地の設定】

国有林とそれに隣接する民有林について、路網連結等の提案を踏まえた森林施業の集約化の検討を行い、平成29年3月8日、森林組合と福永区域森林整備推進協定を締結しました。

【公益的機能維持増進協定の締結】

国有林内に介在する民有林について、周辺国有林と一体的な森林整備を図るため、平成29年3月1日、土地所有者と協定を締結しました。

取組実績と今後の予定

広島県等と連携したケーススタディ地区支援チームにより、森林技術等の普及のために、現地検討会を開催して、情報共有や指導・助言等様々な支援を行っています。

●低密度植栽育林技術体系の導入の普及研修会

平成28年8月30日、広島県、神石高原町、広島森林管理署、広島北部森林管理署共催で、森林資源の循環利用に向けた低コスト施業技術の導入を目的に、普及研修会を開催しました。

当日は、広島県内の森林組合、県の農林水産事務所のほか、近隣の山口県、島根県からも参加があり、合計97名の出席がありました。

まず、神石高原町の坂瀬川区民会館に集合し、広島県から再造林コスト低減等の取組状況についての報告があり、その後、二班に分かれて机上演習と現地研修を実施しました。

机上演習では、広島県から2000本植栽育林技術体系の導入について説明を受けた後、目標林型早見表を利用して将来目指すべき林分へ導く演習を行いました。また、現地研修

では、広島森林管理署から新元重山国有林（福山市）の低密度植栽試験地の林況及び施業履歴等について説明を行い、植栽本数の違いによる林分を確認しました。

広島森林管理署から「低植栽密度で造成されたスギ・ヒノキの標準伐期齢を超えた林分の林分構造及び材質の調査結果」について報告を行い、低密度で植栽しても材質等には影響がないことなどの説明を行いました。



●森林共同施業団地の設定等

平成29年3月8日、森林組合と福永区域森林整備推進協定を締結。

平成29年3月1日、公益的機能維持増進協定を土地所有者と締結。



●低コスト再造林現地検討会

平成28年11月10日 神石高原町において、広島県、広島北部森林管理署、広島森林管理署、神石高原町の共催で、再造林コストの低減につながる施業技術の確立と普及を目指した現地検討会を開催しました。当日は、広島県内の森林組合や林業事業体、島根県、山口県の行政機関等から参加があり、合計89名で実施しました。

午前中は、三和公民館で座学として、広島北部森林管理署から国有林で実施してきている「一貫作業システム」について、また、広島県林業課から一貫作業地へのコンテナ苗の植栽効率や植栽後1年経過した林床の状況などについて説明を行い、一貫作業システムやコンテナ苗について理解を深めました。また、会場内には森林管理局森林技術・支援センターから、植栽後3年経過したコンテナ苗の見本が展示され、生育状況等の説明がありました。

午後からは、通ヶ谷山国有林の一貫作業地に場所を移し、地元森林官から現地の概要や主伐・再造林の事業内容を説明し、その後実際に作業に携わった請負事業体から、作業方法や今後の課題などについての説明を行いました。

コンテナ苗による一貫作業システム事業は始まったばかりで、今後、灌木の繁茂や下刈の開始時期、作業システムの構築・作業者間の連携などについて検証や事例を重ねつつ、引き続き民有林・国有林が連携して再造林コスト低減につながる取り組みを行っていきます。



<今後の取り組み>

- ・設定した森林共同施業団地において、民有林の路網と効率的な接続となる路網配置、接続ポイントの作設
- ・一貫作業システム等の低コスト再造林技術の普及啓発